令和３年度第２回ピースツーリズム推進懇談会　会議要旨

１　開催日時

令和４年３月１７日（木）１４時００分から１６時１０分

２　会場

市役所本庁舎９階　第１会議室

３　出席者

懇談会構成員

団　体　名　・　役　職	氏　名
被爆体験証言者（平和記念資料館元館長、元国際平和担当理事）	原田　浩【座長】
広島県原爆被害者団体協議会　事務局長	前田　耕一郎
広島大学平和センター　准教授	ファンデルドゥース　瑠璃
特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima　理事長	渡部　朋子
特定非営利活動法人ひろしまジン大学　代表理事	平尾　順平
一般社団法人日本旅行業協会中四国事務局　事務局長	髙田　義治
一般社団法人ひろしま通訳・ガイド協会　会長	畝崎　雅子
広島市市民局国際平和推進部　部長	村上　慎一郎
広島市経済観光局観光政策部　部長	末政　直美

（計９名、欠席１名）

事務局

広島市経済観光局観光政策部　観光プロモーション担当課長、課長補佐、主事　（計３名）

４　議題

⑴　令和３年度下半期に実施した取組

⑵　令和４年度の取組（予定）

⑶　その他平和に関わる市の事業についての情報共有

⑷　意見交換

５　公開・非公開の別

公開

６　傍聴人の人数

０名

７　会議資料名

資料　　ピースツーリズム推進懇談会（令和３年度第２回）

８　発言の要旨

【１　令和３年度下半期に実施した取組】

（原田座長）
　説明ありがとうございます。今、ご報告いただいた内容を踏まえて、皆さんの忌憚のないご意見をお伺いしたい。

（渡部委員）
　色々な工夫を凝らしながら事業を実施していることがよく分かった。いくつか質問をしながら、意見を述べたい。まず、「わたしの『ピース』探しフォトコンテスト」というのは、全てインターネット上だけで行っているのか。アナログで写真を見ることはできないのか。

（事務局）
　インスタグラムというインターネット上で写真を投稿するアプリを活用しフォトコンテストを実施したため、募集した写真は全てデジタル写真である。昨年度のフォトコンテストでは受賞作品を印刷し、平和記念公園レストハウスで展示会を実施したが、デジタル画面上では素晴らしい写真でも、印刷してしまうと写真の良さが半減してしまうという課題があった。そのため、今年度は、デジタル画面上で多くの方に入賞作品を見ていただけるよう八丁堀などの街角にあるビジョンで発表した。また、入賞作品でカレンダーを作成し、受賞者へ配布し、受賞者のご家族やご友人の方々にも見ていただけるようにした。

（渡部委員）
　なぜ今の質問をしたかというと、素晴らしい写真があるのだから、もったいないと感じた。もっと活用した方が本来の目的に沿っているのではないか。本当に良い写真だなと思っただけに、カレンダーももっと色々な場所へ張り出せばよいし、もっと使えるのではないか。
　やはりピースツーリズムの拠点となるような場所がいるのではないか。その理由は、昨今の世界情勢により、多くの方が、「戦争とは何か」「平和とは何か」という疑問を感じており、その答えを探すために広島へ来たいと思っている。私たちの事務所にも全国から問い合わせが来ており、ほぼ２０代、３０代の方々だが、「私は何も知らなかった。もっと学びたいがどうすればよいか。」と言われる。そのような方々が、戦争や平和について調べる際、広島、長崎、沖縄といった地名が挙がる。その中でも、広島は、恐らく日本で一番、戦争と平和について深く関係している土地柄であると考える方が多いようだ。そのため、これから広島を訪ねる方々の質が変わってくるのではないかと思う。ウクライナの情勢がどうなるか分からないが、核兵器に関しては、歴史的な転換点にある。また、原発についてもこの前攻撃されたが、原発をどう捉えるかということも変わってきた社会の中で、広島の果たしていく役割も恐らく変わっていくのではないかと思う。その中で、ピースツーリズムも幅を広げて考えていくべきではないか。
　やはりデジタル上に拠点があるということが、非常にもったいないと思う。広島の中で色々な取組があるのだから、工夫してそれらとタイアップすべきではないか。サテライトになるようなところが沢山あるのだから、それを結んでいって広島中を巡ってもらいたい。また、「平和とは一体何だろうか」、「戦争とは一体何だろうか」という考えるきっかけを提供していってほしい。せっかく様々な取組を行っているのに、途中でストップしているような気がして、非常にもったいないと思う。そこを打破するとす

ごく大きな波及効果を持っている取組ではないかと思う。ホームページを作ってもらった取組にも言えることだが、そこからもう一つ抜けるということが大事ではないか。被爆樹木に関しては、情報を追加していただいて有難いが、英語の情報はあるのか。

（事務局）
はい、すべてのスポットに関して、英語のページを作成した。ただ説明文の部分が不十分であると考えているので、現在、国際化推進課と調整している。来年度は、日本語の説明文を英語に翻訳したいと考えている。

（渡部委員）
被爆樹木に関しては、BBC や ABC、オーストラリアのラジオ局などが取り上げてくれ、海外の方の関心が高いが、それに対応できるものが広島市にはあまりなく、とても残念だと思う。また、被爆樹木のプレート（標識）に関して申し上げると、被爆樹木には特別なプレートが付いている。その紹介が一切ない。つまり、被爆樹木のプレートを見ると、爆心地からの距離や分類、正式な木の名称も書いてある。非常に分かり易い説明が書いてあるので、それを紹介するということが大事であると思う。また、観光サインについて申し上げると、平和大通りに供木運動についての観光サインはあるが、被爆樹木についてのサインがない。これはやはり取り組んでいただきたいと思う。
いくつかお話ししたが、これまでの市内の色々な場所で、平和に関わる様々なワークショップが実施されているが、常設という形でできればと思う。もう少しピースツーリズムが他の部局とも協力し、拠点を作ってほしい。そこに行けばピースツーリズムのやっていることが分かり、常時イベントなどが開催されているという形になればよいと思う。

（髙田委員）
拠点というのは永遠の課題かもしれない。ピースツーリズムという名前の由来を考えると、ツーリズム、つまり「旅行」ということは、誘客を目的として、その地域を活性化させる取組だと思う。しかし、広島市としてどこまでその取組をできるかということは、これもまた、永遠の課題かもしれない。本来は事務局があり、それが拠点となり、様々な関係団体と協力し、イベントなどを企画、実施するのだろう。その仕組みづくりが必要なのではないかと思う。最近では、アドベンチャー・ツーリズム、エコ・ツーリズム、サステイナブル・ツーリズムなど、様々なツーリズムがうたわれている。ただ、体験旅行などは昔からあったし、新しい名前を使って、どう対外的にアピールし、誘客につなげるかということだと思う。そろそろ、ピースツーリズムという言葉が一人歩きするような運用を考えていってもよいのではないか。そうしないと、渡部委員が言われたような拠点づくりや広がりが生まれてこないと思う。そのための検討委員会、ワーキンググループなどを立ち上げるなど、次のステップに向けての動きなども検討すべきではないか。

（畝崎委員）
まず、今回の発表の中でママさんたちが作ったサイトについて一つ質問がある。インターネットの広告について、誰がどういう風なアクションをすると広告にたどり着けるのかを教えていただきたい。私の周りの２０代、３０代の方々と話していても、インスタグラムなどのデジタル空間というのが大きな発信の場であるというのは間違いないと思う。すぐにアクセスできる形になっているのか。

もう一つ、拠点について申し上げたい。このところ、古谷と一緒に挨拶回りで広島県、中国運輸局、広島市の方々など色々なところを回ったが、その中でよく話題になるのが、映画のドライブ・マイ・カーであった。この作品が単にアカデミー賞を取りそうだということだけではなく、私はこの作品が、５０年、１００年先にも広島を伝えてくれるものだと考えている。それは、広島でのロケ地の一つである広島市のごみ焼却施設「中工場」の話に深く関わってくる。広島フィルムコミッションの西﨑さんが、濱口監督に「中工場」は、原爆ドームと平和記念公園を結ぶ平和の軸線上の先にあることを紹介し、濱口監督はその話に心を動かされたと聞いている。この作品を見た人にとっても、平和記念公園、そして中工場が、非常に大きなインスピレーションになったのではないかと思う。そのような意味で、ピースツーリズムが平和記念公園内で終わってしまうと広がりがないと思うので、拠点が必要だと思う。今、旧広島陸軍被服支廠の中に何を入れるかという議論が始まっているが、被服支廠の中に、ピースツーリズムの拠点と広島の移民の歴史を伝える日系博物館を作ってほしい。

広島の歴史を語る上では宇品港が重要な場所であり、そこから多くの市民がハワイに移住した。パールハーバーが攻撃された際、多くの日系人がいたと言われている。日系人の多くが広島の人であったとも言われている。このように広島移民の話は、強い物語性を持っており、物語としてすごく伝わるものだと思う。拠点としては、例えば旧日本銀行広島支店やレストハウスなどもあり得ると思うが、被爆遺構である必要があると思う。私は、これからの広島を伝えてくれるのは、被爆遺構と被爆樹木だと思う。是非、被服支廠の中に拠点を作ることを検討していただきたい。

（事務局）

畝崎委員の広告についての質問に対し回答する。今回作成した新しいページは、公式ホームページのトップ画面からアクセスできるようになっている。また、より多くの方にページを見てもらえるよう、インターネット広告を出した。広告は、グーグル・ディスプレイ・ネットワーク広告という仕組みを利用し、そのネットワークに登録されている２００万以上のサイトと６５万種類以上のアプリにバナー画像を掲載し、公式ホームページに誘導するというものである。

（前田委員）

若干の身の置き所のなさを感じている。というのは、今ここで語られていることの多くはウェブ上の取組だからである。元々、懇談会が開始された段階で議論していたのは、どういったことを重点的に見てもらうのか、どういった人に見てもらうのかという点であったと思う。現在はそれを基本により具体的に展開しているところであり、（インターネット上の専門的なことについての）知見を持つ人たちによる協議体などが必要なのではないか。ここで議論すべきことを整理し、また、より具体的な展開の中ではもう少し違う検討グループなどで協議することも考えた方がよいのではないか。

（瑠璃委員）

いくつか質問と意見を述べたい。報告の中で４つの動画を見たが、最後の動画は特に映像も美しく、質問を投げかけて考えさせるというドラマ性があるもので、是非ＣＭなどでも利用したらよいと思う。畝崎委員の質問と同じだが、どこでこの映像を見ることができるのか。例えば、トリップアドバイザーなどは多くの方が見ているので、そういったところで積極的にＰＲしていくとよいと思う。

また、前田委員や渡部委員がおっしゃったことでもあるが、デジタル以外のやり方もあるとよいと思う。前回発表させていただいたインターネット調査では、２０代、３０代向けともう少し年代が上の方々

向けの２種類の取組が必要という内容だった。特に深堀をしたい人はリピーターとなり、さらに広島に長期滞在する可能性があるという点も重要な点であった。高齢者になればなるほど、交通の利便性を提供する必要がある。また、ルートの散策を途中で変更できるなどの自由度を高めることにより、より多くの方に長く滞在してもらうことができると思う。案内については、すでに市内で活動されている団体がたくさんあるのだから、それらと連携し、より深く知りたいと考えている方々には、被爆者の方に会っていただいたり、より深い歴史的な経緯を説明するということなどができるのではないか。

被爆樹木は、渡部委員もおっしゃったとおり、大切なテーマの一つであり、被爆体験証言者の瀧口さんなどは以前、被爆樹木の写真展をされている。そういった既にある宝、知見を結びつけて、アナログで展示することもできるのではないか。展示とツーリズムをつなげていき、そして英語の内容も充実させていけば、海外からの来訪者へも響くコンテンツになるのではないかと思う。

発表の中であったように、事前勉強してから広島に来る、それは素晴らしいことだと思う。そこに被爆樹木の情報があったり、被爆者の講話についての情報、既にご存命でない方の場合は大切なビデオがあるので、そういったビデオがどこで見ることができるかなどの情報についてなど、深堀したい方にさらに情報提供できるようになると、「今回は時間がなかった。また次回広島に来て見てみよう。」という展開につながるのではないかと思う。

被爆樹木については、樹木自体の情報、そこに関わった方々のストーリー、そこにあったが消えてしまった町の情報というように文脈を作っていけば、いくらでも訪問者が深堀できる環境を作れるのではないか。その中身を充実させていくには、ひろしまジン大学やANT-Hiroshimaなど市民団体と協力してもらえるようネットワークを作っていくことが必要なのではないか。そうすると、皆さまがおっしゃったとおり、拠点が必要になってくるのだと思う。学術の拠点という点に関しては、広島大学で、今後ピースツーリズムに力を入れていくので、広島大学平和センターの方で情報・資料についてなどはバックアップできると考えている。

ツーリズムについて、髙田委員より様々なツーリズムがあるとお話いただいた。その中にコンテンツ・ツーリズムというものがあり、今度イギリスの出版社から、「コンテンツ・ツーリズムと平和」についての本を他の研究者と出すことになった。また、先日、「観光学と平和学を結ぶ」というワークショップを北海道大学にて実施してきた。国内外で注目されているこの分野を学術だけに留めず、市民団体の皆さま、官公庁の皆さまとのネットワークを使って展開していく、異分野共同型で進めていきたいと考えている。

（平尾委員）

３つ述べたい。

一つ目は、東京のお母さんたちが作成されたサイトについて、素晴らしい取組だなと思った。何が素晴らしいかというと、私たち地元広島の人間は、私たちが「平和」や「ヒロシマ」をどう発信するかという視点は持ち得ているが、この取組は、外の人が「平和」や「ヒロシマ」をどうＰＲするのかということを体現したのだと思う。マーケットのターゲットとなっている相手方がＰＲするとしたら、こんな見せ方、言葉の使い方、こんなＰＲの仕方をするということが、私たちはこのホームページを通して知ることができたのだと思う。私たちはこのホームページができて、ホームページを多くの方に見てもらうだけでなく、むしろここから学ばなければいけないのだと思う。例えば、どのような言葉を使っているのか、どのようなことをすれば伝わりやすいのかなど学ぶべきことは多いと思う。

二つ目はフォトコンテストやＰＲ動画制作について、どちらもその取組を通して募集した写真、作成

した動画自体はアウトプットの点だと思う。例えばＰＲ動画制作については、プロの方が映像を撮影するまでの過程の中で、ワークショップ参加者の学びや気づきというものが多くあったと思うが、そのプロセスにこそ大きな意味があるのだと思う。そこも含めてＰＲというか、開示できると、「あ、なるほど。この動画ができる背景には、このような学び、気づきや思いがあったのだな」ということが視聴者にもよく伝わるのではないかと思う。そうすることで、より大きな意味を持つのではないかと思った。

来年度以降、作成した動画をＰＲ動画として使っていくということだが、あの動画を見て、見た人はどうすればよいのか迷いそうな気がする。先ほど渡部委員が、取組が途中で止まっている気がするという指摘をされていたが、私もそれに共感する。動画としてはこれでよいが、ピースツーリズムの動画を見た人が具体的にどうすればよいのか、何をすればよいのかというところまで落ちていないのではないか。例えば、企業であれば、この商品を売りたい、このサービスを提供したいという目的があって、そのために商品をＰＲするＣＭを作って潜在的な消費者に届けるという流れになる。しかし、今回の動画は、最終的に見た人にどのような行動変容を起こしてほしいのかがフワッとしている分、行動につなげることは難しいかもしれない。「身近な平和を考える」という啓発が目的であれば納得できるが、もしＰＲとして使うならば、動画を見た人に具体的に何をしてもらいたいのか、というところを明確にし、取り組む必要があるのではないか。

最後に、来年度の取組について、ピースツーリズムとして平和をテーマとした周遊を促進するという説明があったが、瑠璃委員がおっしゃっていたこととともリンクするが、行政は何をして、民間は何をすべきかを明確にするべきだと思う。コンテンツの企画や実施は、恐らく民間がやった方がうまくいく、なぜなら事業ベースでやっていかないと持続しないからである。来年度も広島市の予算が付いたら続けることができるかもしれないが、予算が付かなければそこで終わってしまう。結局単年度で実施して、評価しても、次に実施することができないならば、何のために評価するのかもわからなくなってしまう。民間や市民活動にどうつなぐかという出口をしっかりと描いた上でやっていかないと、単発のイベントになってしまう。既にピースツーリズムを実施している ANT-Hiroshima、PCV、SOKOIKO！など各種団体や、堀口さんの被爆樹木巡りなど様々な活動があるので、そういった活動にどうつなげていくかだと思う。その出口を明確にすることで、行政がすべきことが見えてくるのではないだろうか。是非、行政だからこそできることを見定めてやっていただきたい。

（村上委員）

私の所管している国際平和推進部では、平和文化の振興に力を入れており、そのような意味で、フォトコンテストやウェブサイトなど、ピースツーリズムの取組は平和文化を振興する上でとてもよい取組だと考えている。私どももそうだが、コロナ禍の中でどうやって発信していこうか非常に悩んだが、その中で、非常に効果的な取組をされたと思う。

コロナ禍の中で、国内外の来訪者が限られているという状態であるが、渡部委員がおっしゃったように、ウクライナの問題で、広島に対する見方が変わってきた。広島が、今まで以上に注目をされるのではないか、つまり、人の動きが回復してきたときに、「やっぱり広島に行ってみよう」という方が沢山増えるのではないかと期待を込めて考えている。その時に、皆さんがおっしゃられたような拠点があり、実際に広島に来た時に、どこに行ったらよいのか分かるようになっていることが必要だと思う。

もう一つ、東京の WEB 制作専門スクールとの連携についても非常に良いと思う。平尾委員がおっしゃったこととつながるが、行政ができることは限界があるので、継続的に活動を続け広げていくには、このように主体的に活動してくれる団体や個人などを増やしていくことが必要だと思う。来年度の取組と

して、市民や民間団体との協働体制の構築にも力を入れていくとのことなので、こういった団体との連携を広げていくことが大切だと思う。

（末政委員）
今日、皆さんのご意見を伺い、沢山のことを勉強させていただいたというのが率直な感想である。最初にピースツーリズムのルートを作るという段階があり、そこから次の段階に入り、もがきながら、様々なことにチャレンジしているというのが現状である。皆さんよりご指摘いただいたとおり、その先に何を目指すのかというところがまだ見えていない部分もあるので、これから磨いていきたいと思う。既に市民や民間団体の中に活動されている方々がいるので、そこにつないでいくのが行政であり、行政がやるべきところを意識して、令和４年度も取り組んでいきたい。市内にある資源や取組などを活かせるよう、行政が入ることで、ネットワークとしてよりつながっていくような役目を果たしていきたいと思う。

（原田座長）
次の議題に移る。

【３　その他平和に関わる市の事業についての情報共有
⑴　旧中島地区被爆遺構の展示整備について、村上部長が説明】

（原田座長）
現在の説明に関して、何か質問や発言があれば、お願いしたい。

（渡部委員）
パンフレットに書かれている「積層の記憶」、この地が語る歴史という言葉は、非常に大事だと思った。広島市内はどこでも掘れば色々出てくるのだと思う。掘って色々出てきた時に、それを守り、この「積層の記憶」を記録していく街になるのだということを、ここだけでなく、旧市街地全体において行ってほしい。それを、広島の街づくりの基本に据えていただきたいと思う。

（髙田委員）
修学旅行など集団で見に来た場合、入り口から入り、建物を抜けていくことができるのか。入場制限などはあるのか。

（村上委員）
入場制限などは考えていない。広島平和記念資料館の方から入ったら、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館方面へ抜けることができる。ただ、修学旅行など大人数で来た場合は、列はできてしまうと思う。

（原田座長）
警備体制などはどうなっているのか。

（村上委員）
警備は特に配置していないが、シルバー人材センターの方が常駐するようになっている。

（原田座長）

シルバー人材センターの方への研修はしっかりとやっていただきたい。本川小学校や袋町小学校の平和資料館なども同じであるが、来訪者から展示などについて質問を受けるということがあるので、是非、シルバー人材センターの方々にも研修をしていただきたい。

（髙田委員）
可能であれば、旅行会社の担当を集めて見学会などもやっていただければ、各学校へスムーズに案内することができると思う。

（原田座長）
所管課は平和推進課でよいのか。

（村上委員）
はい。この施設の所管は、市の平和推進課被爆体験継承担当になる。

（瑠璃委員）
本当に素晴らしく、沢山の方に見てもらいたいと思う。合理的配慮についてはどうなっているか。移動が難しい方や視聴覚関係の障害がある方にはどのような配慮がされているか。

（村上委員）
車いすについては、段差はないので、そのまま入っていただける。また、展示物の高さもそれをふまえて設置されている。展示については、パネルのスペースの関係で説明文の全てには点字を付けられなかったが、タイトルには点字を付けている。また、全ての説明文には英語も併記されている。

（原田座長）
伝承者やピースボランティアの方を活用するという予定があるか。コロナ禍の中で、伝承者の活動の場がないということも聞いているので、そうなればと思った。

（村上委員）
この施設を作る際に懇談会を設置し、ピースボランティアの方にもそれに入っていただいた。今後、ピースボランティアの方々にも説明もしていただきたいと考えている。コロナ禍の中で、伝承者の活動の場が少なくなっていることも課題の一つとして認識しているので、できるだけ、伝承事業の充実も図っていきたい。

（原田座長）
次の議題に移る。

【３　その他平和に関わる市の事業についての情報共有
⑵　平和大通りの利活用の推進について、末政部長が説明】

（原田座長）
先ほど話に出ていた拠点について、拠点施設として大きく構えるのは難しいと思う。ただ、規模は小さくても、屋根があり、ベンチがあるというものでもよいので、平和記念公園の近くにあればよいと思う。ピースツーリズムの議論の中で取り残されているのは、来訪者と市民との接触の場を作るというこ

とである。そのような場があることで、お互いの意識交流というか、広島の思いが相手の方に伝わるのではないか。平和大通りにある樹木の中には、供木運動として様々な都市から頂いた樹木もある。例えば、自分の県から寄付された樹木がどこにあるかということをＰＲするなど、来訪者と市民が出会えるきっかけを作るということから始めていってほしい。拠点づくりについて小規模であっても、できるところから始めていって、枠を広げていくことが必要だと思う。

（渡部委員）

平和大通りに関しては２つお願いがある。被爆樹木や供木運動で植えていただいた大切な木が、ドリミネーションの時に毎年傷づけられている。例えば、ANA クラウンホテル前の木など、電線でぐるぐる巻きにされ、屋台が出た際の汁物の残り汁を根にかけられるなどという被害を受け、木が弱ってしまっている。市として何が大事なのか、何を大事にするのかということを考えてほしい。例えばドリミネーションの際、樹木を傷めないようにするなど取り決めを関係者でして、年ごとのテーマを持ってやるなどできないだろうか。一つの一つのイベントの際の気配りが必要だと思う。

もう一つは、自転車が危ない。自転車が通るところと歩行者が歩く場所を分けていかないと、高齢者が増えていくと事故につながるのではないかと思う。最近は電動自転車が多いので、大きな事故につながらないようにしてほしい。

（髙田委員）

今日初めて拝見させていただいたが、とても良いと思う。具体的に平和大通りがどのように変わっていくかというのはこれからワークショップなどで議論しながら決めるということだが、広島は水の都とも呼ばれているし、市内には川が沢山流れていることもあるので、船の離発着や雁木をうまく使って開発を進めていってほしいと思う。

（畝崎委員）

この計画案を聞きながら、非常に嬉しかった。平和大通りをゆっくり歩きながら供木運動の木や被爆樹木などについて知っていくというのは、まさにピースツーリズムだと思う。それには、まず、洋式トイレが最低でも四か所くらいは必要ではないかと思う。今は、平和大通りをゆっくり歩くというプログラムが沢山あるわけではないので、あまり問題にならなかったと思うが、これからは必要になってくると思う。また、ドリミネーションについて、夜は非常に美しいが、昼間は非常に見苦しい。もし、平和大通りを本当に皆さんに通年を通して歩いてもらう場所にするには、ドリミネーションや看板の在り方などを考える必要があると思う。

また、例えば、週末の１１時になると市民の方が１０名ぐらいをつれて歩いてくださるツアーなどがあったらよいと思う。イメージは、長崎さるくなどの取組である。ボランティアの方々が、木の由来などを説明していただけたら、来訪者にとってもとても楽しいと思う。木に看板があるというのも必要かもしれないが、できれば、市民ボランティアの方が実際に案内してくださる方がよいのではないか。

（前田委員）

この基本計画は都市計画としてでなく観光政策部が主体となって作られたということで、その意義は非常に大きいと思う。

もう一つ、ピースツーリズム推進懇談会が始まったもとというのは、私の認識でいうと、「より多くの

人に広島に来てほしい」「より多くの人に広島を深く知ってほしい」ということだったと思う。東京のWEB 制作専門スクールの方々の作成されたものは、非常にとっつきやすく、わかりやすいと思う。評価はしているが、できれば、このwebサイトを見ることを通じて平和とか広島について多様な見方があるということにつながっていってほしい、広島や平和を深く認識してもらうものになってほしいと願っている。このwebサイトは平和を考えるきっかけとしては非常に良いと思うが、それが広島に来てもらうことにつながったり、より「ヒロシマ」ということにつながるものになってほしい。

（瑠璃委員）

素晴らしい計画で、これが進んでいくのを楽しみにしている。鎮魂という言葉に対してコメントをしたい。鎮魂というのは、亡くなった方を追悼するという意味で、歴史というか広島の被爆体験が終わったという感じを受ける。ただ、先ほど渡辺委員、村上委員も言及されたように、今のウクライナの情勢の中で、なぜ多くの人が広島へ来たいと思うのかを考えると、「あそこへ行けば、被爆の体験を持った方がいる。そして、その体験から学び、平和を作ろうとしている人がいる」からではないか。つまり、終わった話ではなく、広島が持っている力は、「先人達と共に、どうやって平和を構築していこうか」という努力ではないだろうか。そうすると、「鎮魂」という言葉だけではなく、もう一つ「生きる力」や「活力」と言った表現があれば、広島に行かなくてはならない理由が見えてくるのではないかと思う。この計画では、ピースツーリズムも「鎮魂」の中に含まれているようだが、終わったことではない。例えば、「記憶」という言葉の意味は、今を生きるために過去から学んできたものを、どう明日のために使っていくか、ということであるから、「鎮魂」だけでなく「学び」や「平和構築」という言葉を取り入れる方が適切かもしれない。

また、先ほど議論に上がったバリアフリーやユニバーサルデザインなどを取り入れることも重要ではないかと思う。障害者団体の方の言葉を紹介すると「障害を持っているということが問題にはならない。これがあるかあるからこそ、強くなれる。」とおっしゃっていた。広島が持っている力として、戦後「障害があっても乗り越える。」「障害があったから強くなる。」という面もあったかと思う。そのような新しい見方を広島の文化として表現していけたらと考えているところである。それに加えて、被爆者への支援についても、広島へ行けば、どのような歴史を持って作られてきたかわかる、それは他の障害についての支援の参考になるのではないかと考える学生も多くいる。

平和大通り自体も元々あったものではなく、建物疎開の動員などで多くの方の犠牲の基に作られ、守られてきたということも学べる機会があれば、さらに深い平和大通りの歩き方ができるのではと思った。

（平尾委員）

私は平和大通りが大好きで、都会に居ながら紅葉を楽しむことができる、生活感がありながらも緑を楽しめる場所である。そのような気持ちと、にぎわいという言葉が共存するのが難しいといつも感じている。先ほど議論にもあったように夜のイベントなども含めて、「うーん」と思うものもある。これは価値観の違いなので難しいが、計画案には、「鎮魂・憩い・にぎわい・おもてなしが調和し」と書かれているが、これらを調和させるのは相当難しいのではないかと思う。混在はしているが、調和しているのか、というとしていないと思う。

私たち市民にとっても、カープの優勝、フラワーフェスティバルなど、非常にシンボリックな通りであるので、その平和大通りというブランドをどのように作っていくのかだと思う。広島を体現できるような通りにしていくには、瑠璃先生がおっしゃったようにバリアフリーにして、誰にとっても通りやす

い、ユニバーサルデザインになっているかなども改めて確認しつつ、市民が自由に使いやすくなっていくことが、ある意味、平和的な、平和大通りとしてのアイデンティティになるのではないかと思う。

（村上委員）
非常に楽しみな計画である。第三者的な意見にはなるが、平和大通りの計画ではあるが、平和記念公園とのつながりとも意識して進めていってほしいと思う。

（渡部委員）
このピースツーリズムができた時に、経済観光局の方、市民局の平和推進課の方の両方の方が膝を交えて話ができるということは画期的であった。大きな局をまたいで、これからの広島を考える場になるのではないかという期待があった。回を重ねていくのにつれて、コロナの影響もあったかもしれないが、最初にピースツーリズム推進懇談会に課せられていたものが、矮小化されてきたのではないか。これだけの大きなことをしようとすると、それぞれの局をまたいでやっていくのだという強い思いがないと難しいのではないかと思う。これは広島にとって大切な議論になっていると思うので、改めて、ピースツーリズム推進懇談会の在り方、特に事務局体制も含めて考えていただけないかと思う。
もう一つ、平和大通りの計画案において、気になることがある。市民意見、関心ごとというのがデータで示されているが、よく考えてみると１９４５年から７７年経っている。原爆も戦争も知らない市民が増えており、どうしても自然と比率は、「にぎわい」になる。経済に引っ張られると思うが、広島市はそれでよいのかと問いたい。広島市の皆さん、私たちも含めて、それでよいのかを考えなくてはならないと思う。先ほど「積層の記憶、この土地の声を聴く」とあったが、土地の声、死者の声を聴きながら、この街をどうすべきかを議論しなくてはならないのではないか。そのためには、声は小さくなっていくかもしれないが、そういった経験をお持ちの方々の声を受け止めるということが大事ではないかと思う。その点を考えていただければと思う。

（原田座長）
１０名の委員で発足して既に６年余り経った訳ではあるが、最初から委員として参画していただいている方は４名となった。あと６名は新たに加わっていただいた方々である。最初に何をどうするかという議論をし、まさに平和や文化はどうするのか、広島の平和のメッセージをどうやって強くしていくべきなのか、そしてそれを通してより多くの方を広島に迎えたい、迎えるにあたってはおもてなしの心というか、そういったものを考えていかなければいけないとの結論に至った。拠点施設の問題もある。表示板の整備といった環境整備はどうするのかという議論も取り残されている。まだまだやるべきことは沢山あるので、皆さんの忌憚ないご意見を聞きながら、次に続けていきたいと思う。

（村上委員）
渡部委員からのご意見について、身につまされる思いで聞いていた。ピースツーリズムは観光政策部が所管課としてやっているが、もう少し平和推進課の関与が必要ではないかと感じている。今後の関わり方についても考えていきたいと思う。

（瑠璃委員）

フォトコンテストの受賞作品のカレンダーがとても素晴らしいので、レストハウスなどで購入できるようになれば良いと思う。そのような宣伝の仕方もあるのではないかと思う。

（平尾委員）

ピースツーリズム推進懇談会の在り方という話をいただいて、６年前に比べて、様々な観光事業者の方々が色々な取組をされている。この場が広島のピースツーリズムを作っていく場になるべきであることを考えると、今後、この６年の動きも踏まえて、世代やメンバーについても、多様性を懇談会の中にも取り入れていかなくてはいけないのではないかと思う。懇談会を引き続き継続するのであれば、必要な観点であると思う。

（原田座長）

本日も委員の皆さんからも色々なご意見を頂いたので、それを基に今後の取組に反映させていただきたいと思っている。一つ一つの意見をかみしめながら、より発展的な事業展開を進めていければと思う。本日はありがとうございました。